

はてなの缶詰

血液検査のとき、何本も血液を採る必要があるのはなぜ？



多くの患者さんが苦手と感じている「血液検査」。その理由は多々あると思いますが、疑問や不安はできるだけ解消しておきたいですね。そこで、血液検査のときによく質問される「どうして何本も血液を採るの？」という問いにお答えします。

検査の種類によって必要な採血管が違う

血液検査にはたくさん項目があり、調べる内容によって採血管が異なります。中には検査する機械自体が違うことも。そのため採血の際には、それぞれの検査に応じた採血管に1本ずつ血液を採り分けています。また、血液を外部にさらさないようにすることも重要。私達の血液の中には、さまざまな病原体が潜んでいる可能性があるということも念頭において検査をしています。

血液を採る量は多くても大さじ2杯くらい

採血管の数が多く、たくさん血液がなくなるように感じて不安になりませんか？実は、採血の際に採る血液の量は、多くても20〜30ミリリットルくらい。大さじで例えると、だいたい2杯分の量です。成人では1〜2日で回復するので、健康に影響はありません。献血で約400ミリリットルの血液を提供することと比べると、検査にそれほど多くの血液を必要としないことが分かっていただけでしょうか。

採血のことで不安や疑問があれば、お気軽に採血室(1号館3階)のスタッフにお尋ねください。